

群 教 セ	G08 - 03
	平 14.209 集

商業科目「ビジネス基礎」資料集 の作成と活用

- 起業家精神を育てることに視点を当てて -

特別研修員 大野 慎一郎 (群馬県立伊勢崎商業高等学校)

研究の概要

本研究では、「ビジネス基礎」の授業において、生徒が学習内容に対する理解を深められるように、動きのある図解や動画や静止画を取り入れた Web ページ形式の資料集を作成した。身近な企業の画像を取り入れることや起業の例を紹介することなどにより生徒の起業家精神を育てることができるように工夫した。今年度は「流通経済」の授業で活用し、学習内容の理解と起業家精神を育てることに有効であることを検証した。

【キーワード：商業 ビジネス コースウェア 高等学校 職業教育】

主題設定の理由

平成 15 年度から学年進行で実施される新学習指導要領に、商業科の目標として「商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身に付けさせるとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行い、経済社会の発展に寄与する能力と態度を育てる。」とある。そして、基礎的な科目として「ビジネス基礎」が新設された。

「ビジネス基礎」の内容は(1)商業の学習ガイダンス、(2)経済生活とビジネス、(3)ビジネスと流通活動、(4)ビジネスと売買取引、(5)外国人とのコミュニケーションであり、1年次に設定することが望ましいとされている。本校では1年次に「ビジネス基礎」を教育課程に位置づけ、2単位での履修を計画している。「ビジネス基礎」の学習を通して、商業の学習分野である流通ビジネス、国際経済、簿記会計、経営情報の4分野の科目の内容について学習し、より専門的な学習への動機付けや卒業後の進路についての生徒の意識を深めることができるのである。

特に「ビジネス基礎」の学習内容の一つである「(2)経済生活とビジネス」では、ビジネスの役割、ビジネスの発展、ビジネスに対する心構えを学ぶことになる。将来、生徒たちがビジネスの世界で生きていく自分の姿を思い描いたときに、日本的経営の特徴である「年功序列」「終身雇用」の中で、企業の一員として働くことだけをイメージするのではなく、自らが独立・起業をすることも考えられるようになってほしいとの思いから、ここでは「起業家精神(ビジネスを起こす精神)」や企業経営に関する理念を大きく取り上げることにした。

例えば、起業の手段として、企業組合という新しい企業形態による設立がある。これは4人以上の個人事業者や勤労者が組合に事業を統合(個々の資本と労働を組合に集中)して設立し、組合員は組合の事業に従事するとともに、組合自体が一つの企業体となって事業活動を行う企業形態である。そして、後に株式会社や有限会社に転換することも可能になる。この場合、企業組合の仕組みを理解させることはもちろん大切であるが将来、自分でも起業できるかもしれないと夢を抱かせることも、とても重要なことであると考えられる。また、フランチャイズチェーンにしても同様で、ただ単に仕組みだけを学ぶのではなく、起業の手段として具体的に考えさせるなど、発展的に扱うことがこれからは大切である。

そこで、特に「ビジネス基礎」の学習内容の(1)商業の学習ガイダンス、(2)経済生活とビジネス、(3)ビジネスと流通活動、(4)ビジネスと売買取引について、動画や静止画を用いてわかりやすく図解した資料集を Web 形式で作成し、「ビジネス基礎」の授業の中で、特に起業家精神を育てることに視点を当てて活用しようと考え、本主題を設定した。

研究目標

「ビジネス基礎」の学習内容に対する理解を深め、起業家精神を育てるために、動きのある図解や動画及び静止画を取り入れた資料集を作成する。そして、現在行っている「流通経済」の授業で活用し、その資料集の有効性を検証する。

研究の見通し

教科書の説明を図解したものや、1年生全員が行う短期のインターンシップと2・3年生の希望者が行う長期のインターンシップ及び地域にある中央卸売市場などの動画や静止画を取り入れた資料集を作成し、「ビジネス基礎」で活用すれば、生徒はビジネスについてより理解を深め、起業家精神を育てることができるだろう。

研究の内容

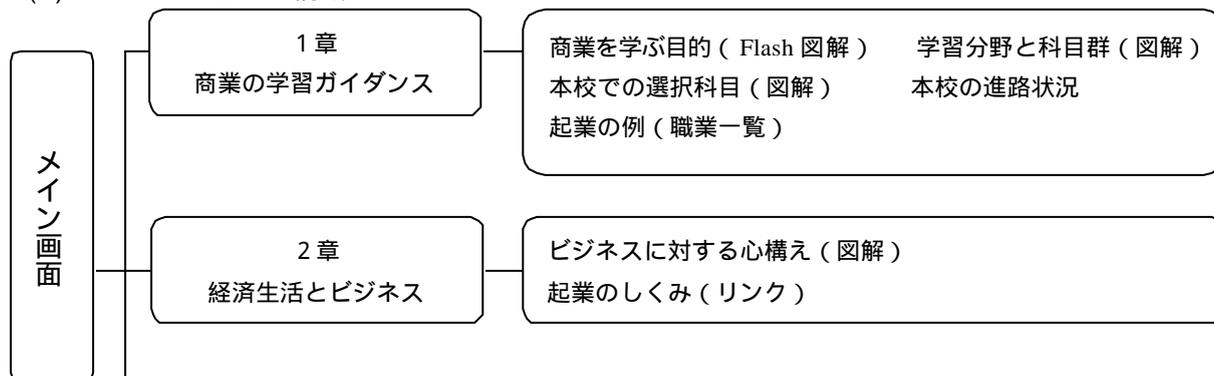
1 コースウェアの概要

(1) 基本的な考え方

本資料集は、高校1年次に履修する「ビジネス基礎」の学習において活用できるように、動きのある図解や動画などを取り入れ、補助資料として作成した。「ビジネス基礎」で扱う各分野の内容を動きのある図解として示し、生徒にわかりやすく提示することにした。また、2・3年生の希望者が夏休みに行っているインターンシップなどの動画を加えることによりビジネスをより身近に感じられるようにした。

また、本資料集の作成に当たっては、コンピュータの環境を考慮し Web 形式にした。「Macromedia Flash」で作成した図解についてはプラグインがブラウザに標準装備されることが多く、学習の効果がより高まる形式のデータなので使用することにした。そして、ページ作成ソフトとしては「Macromedia Dreamweaver」を、素材の作成及び画像の加工ソフトとしては「Macromedia Flash」・「Macromedia Fireworks」・「Adobe Photoshop」・「Adobe Illustrator」を、動画の編集ソフトとしては「Apple iMovie」を使用した。作成するページ画面においては、多くの画像や静止画を取り入れるようにし、視覚に訴えることで学習内容を理解しやすくした。

(2) コースウェアの構成



3章 ビジネスと流通活動	小売商の特徴 (Flash 図解、リンク) チェーンストア (図解、リンク) マーケティング (リンク) チェーンストアにおける起業の例
4章 企業組織とビジネスの担当者	企業の種類 (Flash 図解) 企業の形態と特徴 (Flash 図解) ビジネスの担当者 (リンク)
5章 ビジネスと売買取引	価格の決め方いろいろ (Flash 図解) ワンライティング (Flash 図解) 各種の手形 (Flash 図解)
インターンシップ	インターンシップの進め方
リンク集	先輩の様子 (動画)

2 資料集の内容

(1) 「メイン画面」のページ

メイン画面のページには図1に示すように、タイトル、1章から5章までの項目、インターンシップ及びリンクという項目が表示される。その項目をクリックすることで各項目に移動することができる。また、フレームを使用して、左のフレームには常に各メニューとホームへ戻るボタンが用意されているので、いつでもメインメニューと各項目に移動することができるように工夫した。



図1 「メイン画面」のページ

右のメインフレームには各章の項目を並べてある。各章のページに進むと項目とともに図解が示されており、図解で内容を確認することができるが、このフレームでも各項目の内容に直接リンクできるように工夫した。

(2) 1章「商業を学ぶ目的」のページ

1章では「商業の学習ガイダンス」として、図を4つ用意して、商業を学ぶ目的や選択するコース、科目について説明している。

図2ではFlashで作成した図解を表示している。1章のページの中にも各項目の図解を貼り付けてあるが、その図解をクリックすることによって、大きな図解を別ウィンドウに表示することができるように工夫した。真ん中に3つの項目があるが、それぞれにマウスのカーソルを重ねることで、その内容が右側に示されるようになっていく。このデータはベクトルデータで出来ており、ウィンドウの大きさに対応



図2 1章「商業を学ぶ目的」のページ

して伸縮が可能になっている。ラスタデータで作成した図解では解像度によって図を大きくするとジャギーが出るが、ベクトルデータはそういった心配がないので授業でより大きく図を見せたい場面で効果が出る。

(3) 2章「経済生活とビジネス」のページ

2章では「経済生活とビジネス」をテーマとして扱った。

図3では2章のページと「起業の例」としてリンクページを別ウィンドウに表示している。別ウィンドウに表示させることによって、複数のリンクページを表示させて互いのページを比べられるように配慮した。ただ、リンクするページの選択は難しく、起業の例は無数にある。株式会社リクルートが運営する「アントレ net」というサイトには志向・業種・業態別に職業を選択することができ、起業についての様々な情報がある。このページにもリンクを設定することによって、情報の選択に幅を広げている。



図3 2章「経済生活とビジネス」のページ

(4) 3章「小売商の特徴」のページ

3章は「ビジネスと流通活動」をテーマとし、図、リンク及びFlashで作成した図で構成されている。

図4では、小売商の特徴をFlashで作成した図で説明している。各小売商の文字にカーソルを重ねると店舗の写真が表示されるようになっている。対象としている生徒は伊勢崎が主な活動圏内なので、店舗の写真は伊勢崎市にある小売商を中心にした。しかし、例えば百貨店と観覧車が一緒にいる阪急百貨店のようなものは伊勢崎市にはなく、特徴的な小売商についてはリンクを設定することにより紹介ができるようにした。



図4 3章「小売商の特徴」のページ

(5) 4章「企業の種類」のページ

4章は「企業組織とビジネスの担当者」をテーマとし、図とリンクで構成されている。

図5では、私企業の形態とその特徴をFlashで作成した図で説明している。効率よく図を見られるように、各項目の上にマウスのカーソルを重ねると説明文が表示されるように工夫した。しかし、そのことで各企業の特徴などを一覧表示で

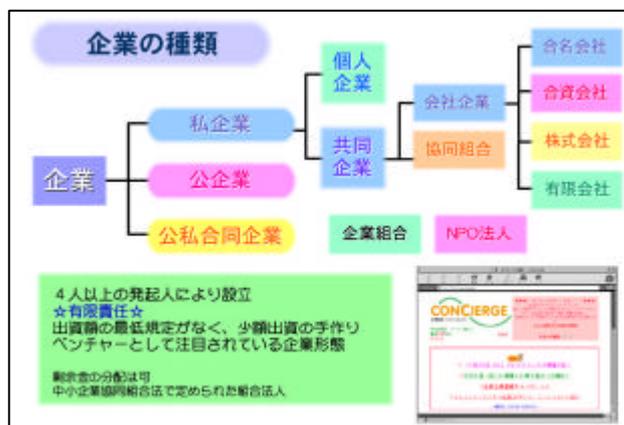


図5 4章「企業の種類」のページ

きないという欠点もあるので、一覧表も同時に表示できるように別ウィンドウで表示できるように工夫した。また、教科書では扱いきれない内容についても図に加えることでより発展的な学習が出来るように工夫した。

(6) 5章「各種の手形」のページ

5章は「ビジネスと売買取引」をテーマとしFlashで作成した図で構成されている。

図6では為替手形の説明をFlashで作成した図を用いて説明している。為替手形は手形のやりとりが行われる前の段階を理解しなければならないので、図の中の「前提」にマウスのカーソルを重ねることで必要な時に説明できるように工夫している。取引に出てくる登場人物については、はっきりとした色で分けて見分けが付きやすくなるように工夫した。



図6 5章「各種の手形」のページ

(7) インターンシップ「先輩の様子」のページ

本校では1年生全員が2日間、短期インターンシップを行っている。また、2・3年生の希望者が夏休みに2週間の長期インターンシップを行っている。

図7では実際にインターンシップを行った先輩の様子を静止画と動画で表示できるようになっている。動画を表示することによって静止画では伝わりにくい部分や実際に働いているという臨場感を伝えることができる。



図7 インターンシップ「先輩の様子」のページ

3 実践の結果と考察

(1) 実践の方法

「ビジネス基礎」は平成15年度より実施される新学習指導要領の科目であり、今年度は授業が実施されていない。そこで、今年度1年生に対して実施している「流通経済」という科目で授業実践を行うことにした。「流通経済」では「ビジネス基礎」で扱う内容を多く含んでおり、本資料集の活用ができると考えたからである。対象生徒は担当している1年生の1クラス40人である。単元については「ビジネス基礎」の第4章「企業組織とビジネスの担当者」第1節「ビジネス活動と企業」を選んだ。本単元は、「流通経済」の授業の中で既に学習している単元である。しかし、その時点では文字や数字及び表を用いただけの説明であったために生徒にとってあまりイメージの残らないものであったと考えられる。本資料集では画像やWebページへのリンクを用いているので、「流通経済」の授業の中で学習した時と今回学習した時を比べた時に、生徒にとって学習成果が変化するか比べられると考え、この単元で実践することにした。そして授業後にアンケート調査を行った。

アンケートについては、基本的に「流通経済」の授業の中で学習した時からの変化を調査するようにした。また、起業については今回が初めての学習になるので、これまでの自分の考えがどう変化したかを調査するようにした。

(2) 結果と考察

「個人企業や合名会社及び株式会社等の企業規模が理解できたか。」

40人中29人が今までよりも企業規模を理解することができたと答えた(図8)。

「流通経済」の授業の中で学習した時には文章や言葉によって企業の規模を理解させていたが本資料集を使い伊勢崎地域にある企業の画像を用いて説明をすることにより生徒の理解が深まったと考えられる。

「写真や具体例がある方が理解できたか。」

35人が、写真や具体例があることによって、理解が深まったと答えた(図9)。

写真や具体例を用いることが生徒の理解度に影響するということがわかった。まだコンピュータやプロジェクターが整備されていない普通教室での授業においても、写真などの画像を拡大して印刷し提示するなど工夫すれば、同じような効果を上げられるのではないかと思った。

具体例については写真だけでなくWebページを用いた。架空のものではなく伊勢崎地域にある企業や実際に存在する企業について学習することによって、理解が深まったのではないかと考えられる。

「起業したいと思うか。」

3人が、起業したいと思うと答えた(図10)。

検証のための授業を行う前にアンケート調査したところ起業したいと思っている生徒は0人であった。

このことを考えると、起業したい生徒が3人に増えたことは、本資料集が起業に対するイメージを持つことに有効で、将来起業したいと思う生徒の動機付けに役立つものだったと言える。

授業を受けたことによって将来自分でも起業できるかもしれないという可能性を見出す良いきっかけになったのではないかと考える。

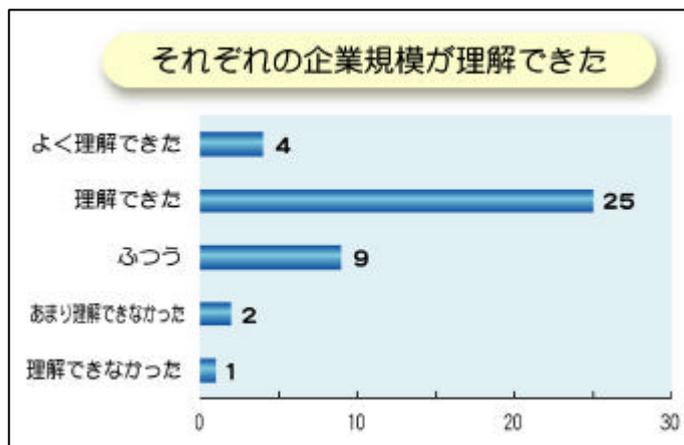


図8 アンケート結果1

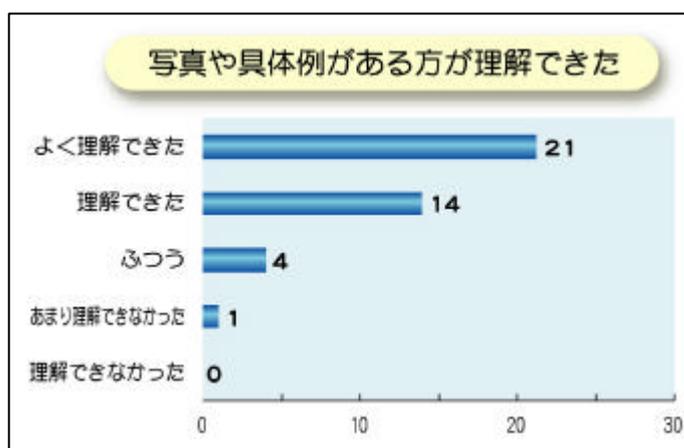


図9 アンケート結果2

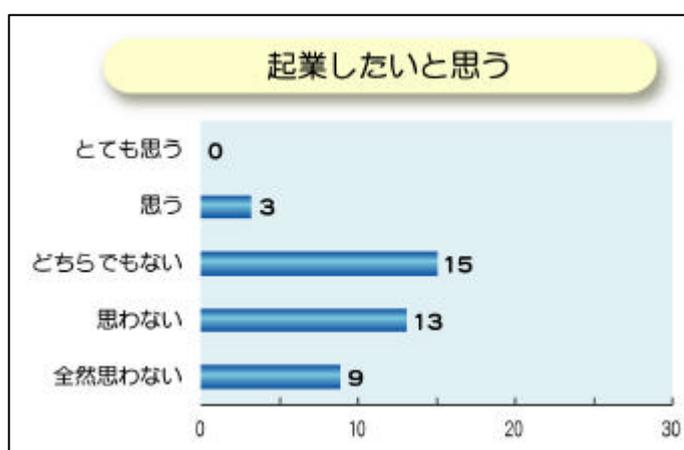


図10 アンケート結果3

研究のまとめと今後の課題

本資料集を授業で活用したことにより、以下の点が明らかになった。

文章や言葉による説明だけでなく、動きのある図解や動画及び静止画を取り入れた本資料集を活用することにより、生徒はビジネスについての理解をより深めることができた。

起業することを考えさせることによって自分の可能性について考えることができた。

授業の中で起業家精神を少しでも育てることができることがわかった。

今後の課題としては、以下の点が挙げられる。

提示する教材の文字が小さいと生徒から指摘された。プロジェクターで投影するサイズや画面に提示するサイズによっても変わってくるが、文字についてはできる限り大きく作成する必要があると考えられる。

資料集に使われている画像については、自分でデジタルカメラで撮影したものである。手間や行動範囲の問題で集められる素材の量が限られる。今後、さらに写真や動画などの資料を収集し、内容の充実を図りたい。

パソコンやプロジェクターといった機材が教室にはなく、特別教室や自分で設置して使用するしかないことが大きな課題である。必要なときに使用できる環境の整備をしていく必要がある。また、画像についてはプリントアウトして使用することもできるので有効に使う工夫をする必要がある。

<参考文献>

- ・小松 章 他 13 名 著 『ビジネス基礎』 一橋出版 (2002)
- ・片岡 寛 他 8 名 著 『ビジネス基礎』 実教出版 (2002)
- ・CK Media Create 著 『ヒラメキ FLASH 5』 秀和システム
- ・境 祐司 著 『速習 Web デザイン FLASH 5』 技術評論社

<商標について>

- ・Macromedia Flash、Macromedia Dreamweaver、Macromedia Fireworks は Macromedia Incorporated の米国およびその他の国における商標又は登録商標です。
- ・Adobe Photoshop、Adobe Illustrator は Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における商標又は登録商標です。
- ・Apple iMovie は Apple Computer Incorporated の米国およびその他の国における商標又は登録商標です。